

三井のリフォーム 住生活研究所 所長 西田 恭子

さだまさしさんのコンサート

さだまさしさんからサインをいただいた。

一九七〇年代に「精霊流し」「関白宣言」のヒットを飛ばし、山口百恵さんが歌う「秋桜」を作詞・作曲。そしてその後も「北の国から」を作詞・作曲し、話題を提供し続けているシンカーソンクライターだ。ソロ

になってから三、八〇〇回目のコンサートになるという日の前日、東京国際フォーラムのホールAでのコンサートにでかけた。

東京国際フォーラムでマンションの管理組合様向けセミナーをしたことのある私は、気楽な気持ちで知人の誘いに応じたが、「A」会場は五、〇〇〇人が入るビックリするほどの大ホールであった。

知人のついで楽屋にも伺った。さだまさしさんとお話させていただき、サインをお願いしたのだが、そのお願いの仕方がなんとも失礼なものであった。

まさか直接お話をさせていただけとは思っていなかった私は、サイン用の色紙がなく、さださん執筆の本を持って来ているわけでもなく、たまたま持ってい

た自分が書いた本にサインをねだったのだ。

そんな私にも快く対応してくださり、丁寧に私の名前とさださんのマーク入りのサインを書いてくださった。コンサート終了時には歌のすばらしさも加わって、すっかり往年のファン気取りになっていた。

さださんにサインしていただいたのは、「リフォームでつくる幸せ家族」真Ⅱという本だ。今年、主婦と生活社から出版し、家族の人数に住宅の築年数を掛け合わせることで見えてくる暮らしを、実例をまじえながら紐解いている。

何気ない暮らしの中にある幸せ感を、私はリフォームを切り口で伝えているが、さださんは歌を通して語られている気がする。

本の紹介をもう少しさせていざと、その本の中に「リフォームのトレンド」という章がある。トレンドというワードインテリアの流行のように取られることもあるが、ここでは暮らしの中に見えてくるトレンドを取り上げている。「夫婦別寝室」や「減築」「中古購入」

「省エネ・エコ」そして「近



居・隣居」。生活の中ではいろいろな事がおきているのだが、住宅リフォームは、その変化をより快適な方向に変換していくことができる。

ただし、そのためには知っておくべき基本情報がある。住宅リフォームを考える方がインテリアトレンドだけではなく、大きな意味のデザインリフォームを考えるための参考になるように、この本を書いた。

ところで私も時々サインを求められるのだが、根っからの悪筆に加えて、どうせ書くならかっこ良くなければという見栄心が働いて、よほどでない限り辞退させていただいている。さださんにお会いし、誰にでも快くサインの対応をしなければいけない、と反省した。

そういえば楽屋に大竹しのぶさんもお祝いに来られ、皆さんと楽しそうに談笑されていた。



西田恭子氏のプロフィールⅡ一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。